

実践報告

札幌市立緑丘小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタンを活用した学習の研究」

- 体験的にアイヌの人や文化「自然を生かしながら共存すること」「独自の文化を守り語り継いできたこと」「アイヌの人たちの生活や苦勞」と自分との関わり方を学ぶことで、社会的な差別や偏見なく生活しようとする人間性を育む。

(2) 実践の内容

【実践】アイヌの人の文化について

○ ねらい

我が国の先住民族であるアイヌの人たちが築いてきた歴史や文化、生活の様子などについて調べ、自然を生かしながら共存し、これまで築き上げてきた文化を守り、広めていこうとするアイヌの人たちの生活と文化に対する見方・考え方を育む。

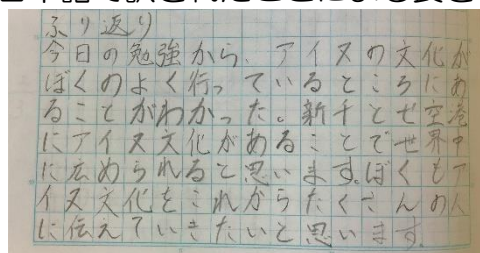
○ 学習内容

【見方・考え方を育む教材化・単元構成】

本単元では、我が国の先住民族であるアイヌの人たちが築いてきた歴史や文化、生活の様子などについて調べた。自然を生かしながら共存し、これまで築き上げてきた文化を守り、広めていこうとするアイヌの人たちの生活と文化に対する見方・考え方を単元を通して育む。そのため、単元の前半では、アイヌの人たちがどのような生活をしてきたのか、「暮らし」・「文化」・「歴史」の内容に分けて調べる活動を行った。

単元の後半には、知里幸恵さんを取り上げることで、当時の時代背景を捉え、アイヌの人たちの苦悩についても考えさせた。そして、アイヌ文化の美しさが現代でも受け継がれ、大切にされている理由を追究していくことができた。

知里幸恵さんがアイヌ神謡集をこれまでアイヌを差別してきた和人の言葉である日本語で訳した意図を、ピリカコタンで学んだことで、日本語で訳されたことによる良さを既習と関連付けて考え、自分の考えをもつことができた。アイヌの人たちがどのような生活をしてきたのか、「暮らし」「文化」「歴史」の内容に調べる活動を行い、知里幸恵さんを取り上げたことで、当時の時代背景を捉え、アイヌの人たちの苦悩についても考えることができた。



【学びの深まりを生む】

日本語訳によってアイヌ文化への理解が深まるという一定の解決に至った子どもたちに、札幌駅や新千歳空港にあるアイヌ文化に関わる展示物を提示した。なぜその場所に展示物があるのかを問い、現代でも知里幸恵さんの思いが受け継がれてきたこと実感させた。さらにこれから先のアイヌ文化の未来についても考えさせることで、アイヌの人や文化と自分がどのように関わっていけばいいのか（共生の在り方）を考え、学びを深めていく子どもの姿が見られた。

(3) 研究のまとめ

① 成果

○校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育の推進について

- 単元を通してアイヌの人たちの生活と文化に対する見方を培うことができた。実際にピリカコタンの体験やお話を聞き、実感をもって「自然を生かしながら共存すること」「独自の文化を守り語り継いできたこと」「アイヌの人たちの生活や苦労」について学んだことが学習に生かされた。中学でも知里幸恵を扱うことを、啓明中の社会科の先生とも学びの系統性を共有しながら授業づくりを行うことができた。

○教師自らの人間尊重の意識の向上

- 知里幸恵さんの功績を扱うことで、知里幸恵さんの願いを自分なりの言葉で子どもたちに語るために何冊か本を読んだ。知里幸恵さんに関する自作資料も作ったことで、より共生の在り方を深く考えることができた。

○子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手立ての構築

- 本時の終末に、子どもが自分でまとめをつくる活動を設定し、本時の学びの深まりを実感できるようにした。知里幸恵さんの思いを自分なりの言葉で表現できたことが成果である。

② 課題

- 目標に迫るため、多くの資料を提示したために、情報が過多となってしまった部分があった。子どもの思考に合わせて、ピリカコタンでの体験やお話と自作資料とのバランスを考え、授業を組み立てていく必要性があった。また、「アイヌ神謡集」が子どもたちにとって難しさがあった。そのものの良さについて、ピリカコタンでの話に盛り込んでもらうことや、アイヌ神謡集の概要について調べる時間を確保するなどが、解決の手立てだと考える。そうすることで、アイヌ文化をこれからも守っていくために自分たちに何ができるのかを子どもたち自身に考え、より具体的な言葉で表現できるようになると感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 社会的な差別や偏見なく生活しようとする人間性を育むためには、学級の友達のことを理解することから始まる。その心の土台を創ることが大切だと感じた。また、道徳の時間でも「異文化理解」に触れたり、総合的な学習や外国語活動・外国語の時間でも、「異文化交流」の場を設けることで、教育活動全体で進めていくことにつながる。今回、「サッポロピリカコタン」に実際に行き、講師のアイヌの方々からお話を聞いたり、一緒に体験活動をしたりなどした経験は、児童にとってとても有意義な時間になり、社会的な差別や偏見なく生活しようとする人間性を育むことにつながったといえる。